

● 思い出の川も橋もなくなってしまった ●

① 無くなった“うずん橋”

右の橋は「埋橋」である。ただし“うずんばし”と呼ばれていた。橋桁を高くしているのは、夏季に水位が増してもこの下を写真で見られる「川舟」が通れるようにとの配慮からである。

この「川舟」は農機具や肥料、農産品（籾・い草など）などの運搬に用いられ、当時農家にとってはなくてはならないものであった。



思い出多いこの橋も川も区画整理でなくなった。そしていまは、写真のように橋のあった位置が農地になり、橋の向うは宅地や新設の道路になり、「田中野田1号公園」の一部になっている。

② 野田川（大川…“おおかわ”と呼んでいた）も消える

下の写真は田中野田中心部の周辺を流れていた川の一部である。往時笹ヶ瀬川が堤防により河道が固定される以前、自由蛇行していた頃の名残りだといわれている。今は50m道路敷や宅地、農地になっている。



編集後記 この写真集は当初、もっと紙数を増やし、写真はカラーにすることなどが検討されましたが、印刷費の関係で止むなくモノクロで、この程度のものになりました。

思うに今からおよそ10年後、懸案のバイパスが高架の車道で全通している頃には、町内の様子も大きく変わり、再びこのような冊子の企画がもちあがるのではなかろうか。こんなことを想像しながら、この特別号を皆さまにお届けする次第です。（編集委員一同）

田中野田町内会
（岡山市御南学区）

ふれあい新聞 特別号

平成12年9月12日 発行

編集（代表）兼発行人

町内会長 和気加太志